

九州運輸局メールマガジン

平成 21 年 11 月 6 日 第 56 号（発行日：毎週金曜日）

～九州の明日を拓く運輸と観光～

九州運輸局ＨＰアドレス <http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/>

九州運輸局メールマガジンのご利用ありがとうございます。

目次

- 1．九州運輸局ホームページアップ情報（10月30日～11月5日掲載分）
 - プレス発表
 - 入札・契約情報
 - お知らせ
 - 海技試験制度・合格発表
 - バス・タクシー・トラック
 - 九州グリーン物流パートナーシップ推進協議会
 - 職員採用情報
- 2．お知らせ
 - 「太平洋の白鳥」来る～帆船「日本丸」が三角港入港～
- 3．現場リポート
 - ロケットと鉄砲伝来の島に「飛鳥」
 - ～クルーズセミナー・船内見学会IN西之表～
- 4．九州運輸局セミナー
 - 「エコ通勤・エコドライブ」にご協力ください
- 5．リレーコラム
- 6．編集長だより

【九州運輸局ホームページアップ情報】（10月30日～11月5日掲載分）

プレス発表

《観光》

- ・外国人による「一人歩き点検隊」の実施について（11月2日発表）
- ～博多港国際ターミナル他で実施します～

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press091102.pdf>

《交通環境》

- ・バリアフリー推進セミナーin下関を開催！（11月4日発表）
- ～バリアフリーの視点から、暮らしやすいまちづくりを考えます～

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press091104_2.pdf

《自動車》

- ・「第1回北九州交通圏、筑豊交通圏、福岡交通圏、久留米市、大牟田市タクシー特定地域協議会」の合同開催について（11月4日発表）

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press091104.pdf>

《海事》

- ・「平成21年度（第53回）船員労働安全衛生月間」の実施結果（10月30日発表）

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press091030.pdf>

入札・契約情報

- ・企画競争実施予定情報（10月30日現在）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/nyusatsu/pdf/koukyou/kikakukyousou_091030.pdf

・企画競争結果公表（更新）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/nyusatsu/pdf/kikaku_kekka/091102.pdf

お知らせ

・整備管理者選任前研修の開催について（差替）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/osirase/file001_021/file055/file055_21_10_29.pdf

海技試験制度・合格発表（10月定期、2級～6級分）

・筆記試験の科目合格発表、口述試験の日程、筆記試験の合格発表（11月2日）

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/kaigisiken/body.htm>

バス・タクシー・トラック

・タクシー事業関係公示等（11月4日付け一部改正分）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/jidousya_k/file13/taxi20.pdf

・バス・タクシーの申請公示（11月2日付け公示分）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/list.html#b_kouji

九州グリーン物流パートナーシップ推進協議会

・メールマガジン 32号

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/kyusyu_green/mail/pdf/mail_magazine/No_32.pdf

職員採用情報

・採用面接日変更のお知らせ

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/saiyou/pdf/mensetsu3_2111_2.pdf

【お知らせ】

「太平洋の白鳥」来る ～帆船「日本丸」が三角港入港～

昭和59年に初代日本丸を引継ぎ、就航している「日本最大、世界でも最大級」の練習帆船「日本丸」が、11月13日（金）～17日（火）まで三角港に寄港します。

三角港は、当初明治20年に明治政府の国内統一殖産振興の政策に基づいて、三角西港として建設された、当時としては最新の技術が盛り込まれ、近代国家の威信を懸けた明治三大築港の一つです。当時、良港を持たない熊本県にとって築港は県民の悲願というべきもので、三角港にかけた期待と完成の喜びは数々の逸話となって伝えられています。その後三角港は有明海、不知火海の二つの海に面し、熊本県の海の玄関として、物資や人が行き交う海上交通の要地として繁栄し、それとともに宇土郡役所（現在の宇城市立九州海技学院）や三角裁判所（現在の法の館）が設置され、宇土地域の行政や司法の中心地でした。

しかし、ここ数年八代港、熊本港等の開港により三角港からフェリー航路が撤退する等衰退の一途をたどっています。地元の宇城市としては、この海のスペクタクルを地域興しの起爆剤として、また、今年度から立ち上げた「宇城海事地域人材確保連携協議会」とも歩調を合わせた各種イベントを計画しています。イベントは、入港日前日からの会場設営に始まり、入港当日は歓迎式典を行い、土曜、日曜には、セイドリル、一般公開等を実施する計画でいます。ぜひ、皆さんも三角に遊びに来て、帆船を見学してみませんか。（九州運輸局熊本運輸支局）

【現場レポート】

ロケットと鉄砲伝来の島に「飛鳥」
～クルーズセミナー・船内見学会 I N 西之表～

11月1日(日) 鹿児島県の種子島西之表港、昨年春に完成したばかりの新しい岩壁に接岸した国内最大のクルーズ客船「飛鳥」。博多港から約800人のクルーズ客を乗せて種子島往復のクルーズ航海です。
この寄港に併せて、(社)日本外航客船協会が毎年国内で数回開催しているクルーズセミナーが行われました。

セミナーには、種子島の1市2町で約760名の応募があり、抽選で150名が招待されました。当日は悪天候であったが、離島の方々の「クルーズ船」への想いは熱く、飛鳥への乗り込みを心待ちにしているようでした。

招待客は、飛鳥が通常航海中コンサート等に使うギャラクシー라운ジの深いソファにゆったりと着席し、ソフトドリンクのサービスを受けながら、飛鳥クルーズの紹介DVDを鑑賞しました。

最初に、九州クルーズ振興協議会を代表して、澤山九州運輸局次長の挨拶と船長への記念品贈呈があり、九州寄港への感謝とクルーズ普及拡大のアピールを行いました。

次に、JTB首都圏ロイヤルロード銀座 クルーズデスク日本船支配人 三宅講師による「クルーズ旅行の愉しさ」と題する講演があり、その中で

船酔い
退屈感
服装
等級差
高額

の5つの不安は誤解であるとの説明があり、「クルーズ旅行をもっと身近に普段着で気軽に参加して欲しい。洋上リゾート感覚・楽しみ方は自由に」などクルーズ旅行の魅力を強調していました。
その後、船内見学が行われ、ゴージャスな船内ときめ細やかなサービスに招待客は夢を馳せ、ため息と感激の連発でした。

九州クルーズ振興協議会は、平成15年に設立され、船会社・観光事業者・関係自治体等と共にクルーズ客船誘致の支援活動を行っており、パンフレットやシンボルマーク入りグッズの製作にも取り組み、さらなる広報活動を展開しています。

【飛鳥の概略】

- ・1990年に三菱重工業長崎造船所で建造。クリスタル・ハーモニーでデビュー
- ・2006年3月に飛鳥として生まれ変わる
- ・総トン数50,142トン、全長241m、速力23ノット、旅客定員800人
- ・郵船クルーズ(株)所有の日本最大のクルーズ客船
(海事振興部・九州クルーズ振興協議会事務局)

「マリーナ及びカーフェリー見学会」を実施！！

宮崎運輸支局では、「海」や「海事産業」等への理解と関心を高めるため、10月28日に、宮崎市立古城小学校の2年生28名、4年生29名、引率の先生4名(各学年2名)を対象したヨットやカーフェリーの船内見学会を、宮崎県唯一の本格的マリーナである「サンマリーナ宮崎」や宮崎～大阪航路を運営する宮崎カーフェリー(株)において実施しました。(2年生はカーフェリーの船内見学のみ)

まずは小学校からマリーナに向かう車中での、船や運輸支局の仕事の内容についての説明です。
持ち込んだ船の写真を食い入るように覗き込む生徒や、熱心に話に聞き入る児

童徒の姿に、この見学会への関心の高さが見て取れます。

マリーナに着くと、80 隻余りのモーターボートやヨットが係留されており、間近で見るヨットの高いマストや美しいフォルムに、皆歓声をあげていました。ヨットの見学では3班に分かれてそれぞれのヨットオーナーからの設備等の説明があり、外見以上に広い船内には、ベッドルーム、トイレ、ギャレー、テレビ、エアコン等と設備が整っており、児童からは「すげー！家みたい。」と驚きの声があがりました。

続いてマリーナの研修室で、マリーナのスタッフからヨットの航法やロープワーク等を学びました。

ヨットが風上に向かって航行できる理由もきっと子供に伝わったと信じており、限られた時間で小学4年生には難しいかなと考えていたロープワーク「もやい結び」も、簡単に覚える児童もいてこちらがびっくりした次第です。

次に大型カーフェリーの船内見学に向かいましたが、車窓から遠くに見える宮崎県内で一番高い43階建てのホテル（高さ154m）よりもカーフェリー（長さ170m）を縦に並べるとカーフェリーの方が高いことを説明すると、「すごい。」とその大きさ感嘆しきりです。

カーフェリーの船内見学では、車両甲板～客室～船橋～救命艇の順で見学をしましたが、児童の関心が一番高かったのは、レーダー、コンパス、風速計などの計器や様々なスイッチボタンがある船橋でした。特に、小さな舵輪で巨大な船の方向を変えることができることに興味深かったようです。

見学会終了後の質問タイムでは、
・どうしていきなりはあんなかたちなんですか。
・フェリーの重さはどれくらいですか。
などと熱心な問いかけがあり、

見学会終了後のアンケート調査でも、
・夏に行ってヨットにのってみたいな～と思いました。
・風で動くヨットがあってすごいし、エコになるからすごいと思いました。
・ヨットの中にベットや冷蔵庫やガスや水道があって家みたいですごかった。
・もやい結びは役に立つので、教えてもらってよかったです。
・フェリーの運転するところに、ボタンがとかがいっぱいあって、すぐ覚えるのは無理だなと思いました。船長や他の人は覚えるのに苦ろうしたと思います。
・カーフェリーは重いのに沈まないのですごいと思いました。
などと、ほとんどの児童が「また海や船を見に行きたい。」と答えており、見学会の効果は十分にあったと思います。

子供の嬉しそうな満足した顔を思い出しながら、今後も海事思想の普及に一層努めていきたいと、スタッフ一同あらためて感じたところです。
（宮崎運輸支局）

【九州運輸局セミナー】

「エコ通勤・エコドライブ」にご協力ください

地球温暖化対策のためには、日常的な「節電」や「リサイクル」など、私たち一人ひとりが協力することがとても大切です。

その中でも「車の利用を見直すこと」が最も効果的であることを皆さんは、ご存じでしょうか？

家で普通に暮らしていれば、CO₂は出るものです。

テレビを消したり、エアコンを調節したりすれば、CO₂は減らせます。

しかし、クルマの利用を少し減らすだけで、何十倍も、効率的にCO₂を減らすことができるのです。

そこで、皆様にエコ通勤・エコドライブへのご協力をお願いしたいと思います。エコ通勤とは、「マイカー通勤から環境負荷の小さい交通手段（鉄道・バス・自転車・徒歩）による通勤へ転換する」ということです。

健康や交通安全の観点からも望ましい「エコ通勤」を、ぜひ、ご無理のないで
きる範囲でご協力ください。

エコドライブとは、「自動車を運転する際に、一人ひとりのドライバーの心が
けにより燃費を節約する」ということです。

国土交通省では、次のような「エコドライブ10のすすめ」を提案しています
ので、地球環境にもお財布にもやさしいエコドライブを、読者のみなさんも始
めてみてはいかがでしょうか？

ふんわりアクセル「eスタート」
加減速の少ない運転
早めのアクセルオフ
エアコンの使用を控える
アイドリングストップ
暖機運転は適切に
道路交通情報の活用
タイヤの空気圧をこまめにチェック
不要な荷物は積まずに走行
駐車場所に注意

環境課では、温室効果ガス(CO₂)を減らすために、私たち一人ひとりが手軽
に取り組める「エコ」について検討を行っています。

「エコ」に取り組むことにより、少しでも地球温暖化の防止や道路交通渋滞の
緩和ができればと考えています。

(交通環境部環境課)

【リレーコラム】

～ 続・情熱大陸 ～

コラムのテーマを決めるのに少々悩んだ。パチンコについてなら一端の蘊蓄を
語れるが、役所のメルマガに載せるテーマとしては多少問題がある。ここは
無難に「九州・レイルマンス」の話にすることにした。

「九州・レイルマンス」とは、「鉄道の日(注1)」記念イベントを集中して
実施する月間である。イベントの概要については、既に、九州運輸局のHPや
メルマガでも紹介しているので、ここでは鉄道を愛する人々の「熱い思い」に
感激した話。

今年の多彩なイベントの中で、私の一番のお気に入り、は、「鉄道観光新時代」
と銘打ったトークショー。「くま川鉄道は残さねばならない動脈。沿線住民の
心の結集が大事。」と訴えた田中信孝人吉市長の言を引用するなら、多良木町
交流館石倉に「本気の人」が大勢集まった。司会進行は砂田光紀氏(注2)、
砂田氏の師匠で鉄道デザインの第一人者水戸岡鋭治氏、沿線の鉄道写真を撮り
続ける元映写技師の福井弘氏、自費で購入したSLを某鉄道会社にボンと寄付
した元中学教師の小澤年満氏、「世間遺産」の発掘で地域貢献しているNPO
かごしま探検の会代表の東川隆太郎氏、その一員に加藤進企画観光部長はじめ
我々九州運輸局職員一同も付け加えてもらったのは少々面映ゆかったが。

特に、水戸岡氏のお話には感動した。一見、何処にも居そうな痩せたオジサン

だが、話し始めた途端に大きくなる。勿論、態度や声のことではない。信念を持って仕事に取り組み、成功を収めた人だけが放つオーラがある。一つ一つの言葉に重みがある。「真剣」「フェアプレイ」「意識のレベルアップ」など、この人の生きざまに関わるキーワードが、マリナーズのイチローと同じくらい良く似合う。クライマックスの、「住民が望むモノは風呂でも床屋でも寿司屋でも、何でも作れる。近い将来、九州で、九州を一周する世界一の車輛を作りたい。」のくだりは、正しく以前、氏が出演されたTBSテレビ「情熱大陸」そのもの。思わず目頭が熱くなったのは私一人ではあるまい。

くま川鉄道と「がまんちょ会（注3）」の皆さんも熱かった。厚地（アツチ・熱血?!）社長以下大勢の方が参加して「カフェ列車」を盛り上げてくれた。さらに「トークショー」の模様をDVDにして送付してくれた。この雰囲気も多くの人に味わってもらいたい。希望者には焼増して差し上げたい。そして、「来年は是非うちでイベントをやりたい」といくつかの鉄軌道会社が名乗りを上げることが願う。

最後に後日談を。偉人に被れてしまうのが凡人の悲しさ。付焼刃の「情熱」で若手職員の仕事ぶりに余計な嘴を挟んでは煙たがられ、一人寂しく喫煙部室へ向かう今日この頃。さて、至福の一服後、放課後の部活は何にしようかなと。・・・エークソ！やっぱり今日も仕事だゼイ！！

（注1）明治5年「汽笛一声新橋を」の10月14日。九州人としては、その7年も前の慶応元年にグラバーさんが長崎の大浦海岸通で陸蒸気「アイアン・デューク号」を走らせた7月某日でないのが、ちょっと悔しい。

（注2）オフィス フィールドノート代表。ポスター制作からメインイベントの企画・演出まで「九州レイルマンス」は、この人在于てこそその事業。溢れる情熱と誠実さで、「九州遺産プロジェクト」など他にも沢山「いい仕事」してますよ。（お礼の意を込め、ちょっと宣伝。）

（注3）くま川鉄道を応援しているボランティア組織。「がまんちょ」とは、球磨川に生息するハゼ科の魚「ヨシノボリ」の地元名で、「せぐっちょ」とも呼ばれ、くま川鉄道のマスコットキャラクターになっている。（九州運輸局鉄道部長 山口 雅基）

【編集長だより】

今週もメールマガジンをご覧くださいありがとうございます。

11月は各地で菊花展が開かれています。菊は平安時代頃中国から秋の重用の節句とともに日本にもたらされたもので、鎌倉時代の初め後鳥羽上皇の時代に天皇および皇室の紋となったといわれる高貴な花です。一般庶民の間で栽培されるようになったのは江戸時代になってからで、日本の各地で品種改良が進み「江戸菊」「嵯峨菊」「伊勢菊」「肥後菊」などの独自の品種が作り出されました。こんなことを考えながら菊の花を見ると、今までとはひと味ちがって上品な花に見えるのでは。

九州運輸局では貨物自動車による過積載撲滅に取り組んでいます。九州運輸局、九州地方整備局、警察、各県等で組織する貨物自動車過積載防止対策連絡協議会では、過積載絶滅運動強化月間を設けて合同で取り締まりを実施しています。

九州各県毎にそれぞれ強化月間を定めていますが、福岡運輸支局、大分運輸支局などでは11月を強化月間として各地で取り締まりを行う予定です。貨物自動車を運転される方は、交通事故に繋がりやすい過積載運送にはくれぐれも注意をお願いします。

皆様からのご意見・ご要望等を募集しています。下記のメール又はファックスからお気軽にお寄せください。

九州運輸局メールマガジン編集長（九州運輸局総務部広報対策官）

森 益隆（もり ますたか）

mail : mm-kyushu@qst.mlit.go.jp

Tel : 092-472-2312 Fax : 092-471-7192

バックナンバーは、次のURLに掲載しています。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/top.html